

2010.5.15

Contents

木材危機がやってくる

「家」は第2の森になる

キニナルマドリ

Office HABITA

住まいは巣まい

住まい文化の葉

HABITAな風景

住健住康

Green Earth

5th ROOM

連載

Weekly HABITA 027

木材危機がやってくる

界一です。しかし、日本の事情と比較して見ると、そもそも国土に占める森林率は、日本の約70%に対して20%しかありません。

結局10倍の人口を抱える中国に対して、一人あたりの木材の保有量で考えると日本は3~4倍あることになります。

そこで中国は、アフリカの途上国に支援をする形で森林を切り開いています。しかも資金的な支援だけではなく、豊かな人口をベースに人手の派遣も行い急ピッチで森林資源の確保を進めています。食料と同じように途上国に木材産業を興す支援となっていますが、このことによりアフリカの天然材が大伐採されているのです。木材の使われ方はもとより、大量の伐採による地球の環境変化などを考えると、石油や食糧と同じように、「Xylo Crisis」～世界的な木材危機が起きるのも秒読み状態にあると言っても良いでしょう。

木材は石油と同じようにとても広い範囲で活用されています。直接的に燃料として燃やされている木材があり、紙の原料にもなっています。木

今、日本の食糧の自給率が問題視されています。しかしその危機感を忘れるように、日本には食事を残すほどに充足し、一方で世界中には飢餓に悩んでいる地域もあります。「もし他国からの食糧の供給が途絶えたら?」本当の意味での食糧自給率への心配は、その危機を想像しなければわからないことです。住宅事業の中で、木材資源についても、同じことが起こりつつあります。

木材危機 -Xylo Crisis- の世界を想像することから、住宅のあり方を考えてみたいと思います。

食糧自給率の根底

食糧の自給率が問われるようになったのは、2008年の石油の流通不足によるエネルギー危機が起点となっています。新しいエネルギーとして、トウモロコシなどの穀物がバイオエネルギーに転換され、家畜用の飼料から食用の穀物までが不足し価格が高騰する事態にいたりました。報道も繰り返されたので、記憶に留めている人も多いことと思います。日本もこの大きなうねりの中で影響を受けています。

しかし、この問題は日本の自給率

だけを報じるような表面的な問題ではありませんでした。隣の韓国も同じように食糧の自給率の低さから対処を始めました。世界で一番人口を抱えている中国ももちろんです。自給率の問題は、そのまま食糧危機の問題になるのです。

この点において、両国は迅速な対応をとりました。それは自国の農業生産高を向上させるという施策ではなく、途上国の土地を農業事業用地として使用する契約を進めたのです。これまでのように国が支援するODAとは違い、政府が農業事業に進出する自国企業の金融面を支援し進めてい

ます。途上国としては、農地開発が進むと同時に、国内生産を高め外貨獲得ができるうことになり、大きなメリットがあるように思えます。

減反を行っている日本では、他国農地の開発は国内の農業を衰退させかねないという懸念を抱いています。保護主義的に感じますがそれだけではなく、飢餓に苦しむ人間がいる途上国の生産食料を買い占める結果にもなりかねません。日本が同じ施策に手を出しかねる理由です。

この食糧危機に対する農地買収と同じことが、実は森林資源においても行われています。

木材が足りなくなる

中国は大きな国土を持つ国です。日本の25倍の面積があり、3000万haを超える人工林を持っているのも世



材危機は、石油と同じようにほとんどの企業活動そのものに、影響を与えることになります。

住宅の評価が変わってくる

もちろん住宅を建設するにも多くの木材を必要とします。木材危機が訪れたら新築住宅の価格も、当然のように上がります。木材をなくしていくことによってパネル化した住宅が脚光を浴びる可能性もあります。鉄やコンクリート・アスファルト・ビニールが、今まで以上に材料の主となるかも知れません。なによりも木材を使って住宅を建設するのは、とても贅沢なことになります。

新築よりも中古の住宅の流通が盛んになるでしょう。必然的に中古住宅の価値が高まります。こうして手に入った中古住宅も、木材の価格が高いのと、まだ使える木材を捨てることが不合理で、建て替えは躊躇されます。むしろ中古住宅に使われている木材がそのまま財産価値となり、木材の使い方で査定が行われる可能性が出てきます。

細い材よりも太い材を使っている

住宅は、価値が高いと判断される上に長持ちします。なによりも木材が高騰している時代に、再建築を考えれば評価が上がるのは当然です。

使いにくく、改修が大変と思われて重荷になっていた古民家も、木材の価値で見直せば大変な財産です。壊そうとする活動よりも、残そうとする活動の方が活発になるでしょう。

残された木材は財産として大切に扱われます。古びていることは、価値を下げることではなく、むしろ価値を上げる判断が生まれてきても不思議ではありません。すでに欧米ではその様に判断されています。

そもそも、長い歳月をかけて育つて来た樹木を短い時間で消費することは、さらなる危機を招きかねません。住宅のように長く使える資産にして残すのが良い策です。

こうした時代が来る確率は地球環境のことを考えてもそんなに遠い先ではありません。考え方によっては、木造住宅の建て時は今です。未来からの目線で見て、これからのお住まい方を真剣に考えてみてはいかがでしょうか。

「家」は第2の森になる

1995年以降、日本の山林における木材蓄積量は、天然林よりも人工林の方が多くなりました。終戦の時には疲弊していた山林も、植栽を進めることでここまで育ってきました。こうした山奥の樹木が伐採されて、加工されて住宅の部材になりますが、残念ながら国産材の供給は2000年を過ぎて一度20%を切るまで低下しました。いわゆる外材に押されて日本の林業が崩壊寸前となつたのです。今現在の国産の木材がどのような工程をたどつて優れた構造材に加工されて建設現場まで届いているのか追いかけながら取材しました。

伐採から製材まで

木材の源流は伐採現場にあります。当然、深く山に入り込んだ場所です。特に日本の代表的な樹木である杉は、実は最も大気汚染に敏感で弱い材でもあります。つまり、山奥のきれいな空気を吸つて育つきました。**①**

多くの場合、伐採の場所は大きな機械が入り込む余地ではなく、1本1本の樹はキコリの手によって伐採されます。時期は樹木の成長が少ない時を狙うため、夏場を避けて行われます。キコリの伐採作業は主にチェーンソーで行われます。倒したい方向の幹に切り込みを入れ受け口とし、最後は反対側から矢と呼ばれるクサビを打ち込むことで倒します。**②** 倒す方向は、樹木に傷をつけないように山側か平らな方向です。この時の切断部の直径は50cm近くあります。これまで樹として育ってきた歳月を思えば、矢を打ち込む音が山間に響く瞬間は、とても神聖な気持ちになります。

伐採された木は、搬出を容易にするためにも、山の中で枝打ちを行い長さが揃えられます。この長さを揃える工程を玉切りと言います。**③** この後にどのような製材加工品になるかによって切られる寸法が決まります。構造材としての玉切りは多くが4mで切られますが、合板などの面材用の玉切りは2mで切られてしまいます。

玉切りの後、山から製材所に搬入された木材は、最初に皮むきが行われます。**④** 皮をむくことによって虫が付くにくく保存ができるから、伐採が行なわれない夏場には皮をむいた状態でストックしておきます。

皮むきを終えた材は、径の太さから判断して上下が揃えられます。住宅として完成したときに逆さ柱とならない

ように、樹木の元口と末口をこの段階で確認しています。

次の工程は製材です。人工林では樹齢もそろっているので、銘木として選ばれて別の流通に回すことは珍しいことです。一連の作業の中でどの材も同じように製材されます。**⑤** こうして本来は円形の断面である木材は、最初に端が落とされて角材となります。

さらにこの後の乾燥工程を容易にするために、ラミナと呼ばれる4cm厚ほどの板状の材に割かれます。1本の角材は6~7枚のラミナになります。木材の乾燥は年輪を越えて水分が抜けることは少ないので、板状にすることで年輪が切られ乾燥しやすくなります。ムク材で背割れを入れて乾燥させるのと同じことです。

この製材の工程では鋸が使われますが、実は木屑は工場内にはほとんどありません。切れ端の材も含めて切屑はほとんど回収されて燃料として使われています。工場内の暖房だけではなく、乾燥工程のエネルギーとして使い、さらには発電タービンを回して加工機械の駆動にも利用しています。化石燃料を使うことは、余分なCO₂を排出

し地球環境に影響を及ぼすことです。

乾燥から集成まで

木材の耐久性や強度を高めるためには何よりも乾燥が大切です。乾燥工程はとても手間のかかるものでした。昔は丸太のままでも乾燥を行いましたが、人工乾燥が進んだ現在では生木からすぐに製材にかけられるようになりました。さらにラミナに加工された材は桟木を挟みながら積み上げます。材の間に空間ができ最も乾燥しやすい状態になります。**⑥** このように桟積みの状態で、乾燥釜に入れて人工乾燥を行います。

人工乾燥も最新のものは、低温乾燥が主流です。高温で乾燥させると木材の繊維質が傷められ、強度にも影響が及ぶ可能性があるのです。さらに、乾燥釜の中では実は水蒸気をあてながら乾燥が進められています。**⑦**

木材の樹脂分を一度水分に置き換えてから乾燥させる必要があることと、表面から単純に乾燥させると収縮が不均衡に起こるために、反りや割れが発生しやすいのです。ラミナに加工した状態での乾燥は釜出しで10%以

下の含水率を達成することができます。このラミナから製造される集成材の最大の利点は、この乾燥にあります。

乾燥されたラミナは、次にグレーディングと言う工程を経ます。1本1本のラミナを、強度や材の質などによってグレード分けします。特に強度については、ラインを流しながら曲げてみると、大きな節や欠損などによって強度が低下した部分を探し出し切り取ります。こうして強度が確認された材で作られているので、高い安心感が得られます。また、短く切られたラミナもフィンガージョイントという

強固な継ぎ方で1本の材として生まれ変わります。

一般的な構造材は、完成了際に見えることがないので、材質を問うことはありませんが、現として使う材は強度だけではなく、材としての品質グレードも高いものを使わなければなりません。これは人の目で確認しなければできないことであり、HABITAの材ではこうした特別の工程を加えて作られています。

グレーディングと同時に、木表と木裏が機械によって確認されます。人の指紋を認証するように、ラミナの小口をスキャニングして、その木目の形状から自動的に判断するのです。集成材として積層する際には、歪みを相殺吸



見本 人工乾燥も最新のものは、低温乾燥が主流です。高温で乾燥させると木材の繊維質が傷められ、強度にも影響が及ぶ可能性があるのです。さらに、乾燥釜の中では実は水蒸気をあてながら乾燥が進められています。**⑦**

HABITA構造材、伐採から製材・出荷まで



色を見ながら、手作りの風呂に入る醍醐味を毎日味わうという贅沢はうらやましい限りである。南面にもう一つ、縁側としての出居がある。住みながら木製テッキが主人の手によって徐々に完成されてゆく。



HABITA建築抱茗荷

キーナルマドリ



1階 27坪

2階 19坪

出居のある家

屋根の下の外部空間。雨の日にも室外で過ごすことができる。出居とは、その名の通り「出」=out、「居」=livingを表している。外の空間でありながら、リビングのようにくつろげる。

玄関先の出居は8畳分もあって、雨をしのぐだけでもつたない。片隅には木工道具があり、主人の工房になっている。都会の喧騒から離れて、有意の時間を大切にする暮らしぶりが現れている。

主人の手から生み出されたのが、大きな浴室に置かれた木製の湯桶。壮大な景

収して、より安定した材として完成させるために、木表・木裏が交互になるように積み重ねられています。積層された材は、圧力を加えられながら養生をして接着剤を硬化させます。^⑧

接着剤には各種ありますが、黒色のレゾルシノール系と、白色のイソシアネート系が主流です。使用環境により国認定制度があって、火にも水にも強いのが、黒色のレゾルシノール系樹脂です。価格としても高いですが、火災や湿気を考えれば、黒い色の筋が入っていれば、グレードの高い安心のマークと言えます。



こうして生産された国産材の集成材は、乾燥など優れたものにも関わらず、全体のシェアではまだ2%ほどにしかなりません。国産材の普及と品質の確保を考えると、これから将来性が期待される材料です。

❖ プレカットで現場搬入

生産された国産材の集成材は、建設現場での組立施工を正確にし、品質を向上させるためにも、コンピュータで管理された加工工場で仕口のプレカットを行い出荷されることになります。^⑨現在の木造住宅の現場で工場加工された材料を使っているのは、都市部で90%を超えた。大工が自社の作業場で加工をする姿を見ることは、今や稀なこととなりました。通常の木造住宅では、この仕口加工の工程だけで完了しますが、金物工法を採用している場合は、接続金物も工場で取付けます。^⑩こうして生産加工された材は、建設現場では基本的には組み立てるだけで骨組みを形成

することができます。

ただし、現にして内装の仕上げとして見える材とするためには、最後の仕上げ加工を施さなければなりません。鉋をかけた超仕上げや、ヤスリをかけたサンダー仕上げの加工を行います。これらの加工だけでも1棟あたり20万円近くのコストがかかります。

これらの加工を加えた材が現場に搬入されると、組立の工程は大幅に合理化できます。多くの場合は、1階の柱から始めてでも当日中に棟まで上げることができます。完成してしまうとなかなか見ることのできない構造体の悠々とした姿を、是非、目の内に焼き付けておいていただきたいと思います。

これらの伐採から加工・組立の工程を、HABITA/TV4ch「住宅ドキュメント」の「住まいができるまで」の中で、映像で紹介しています。実際に作業している姿を、動画で確認ができますので、参考にしてください。

❖ 住宅は日本の資産になる

現在は、こうした構造材も外材が主流となっている時代ですが、日本の住まいには日本の木材が合います。また日本には人工林がしっかり育ち、列島の各地に特産の材もできました。特に5寸の大断面材は、60年以上の成長を重ねてきた樹木でなければ採れません。これまでの伐採から製材の流れを経て、建築現場に届けられたものです。しかも、元の樹木から考えれば、届けられた材は最終的には30~35%しか使われていません。育ってきた元の年数を取り返すには、私たちは200年以上使う決意をしなければなりません。

次のような想像をしてみてください。身近にある住宅街を眺める時に見える完成された姿ではなく、見る目をもって眺めてみるのです。外壁や内装をすべて省いて設備も外してみれば、木材の柱が林立しそこから伸びる梁が枝のような風景となります。伐採されてきた森が、これまでの工程を経て住宅街の森として生まれ変わったと見ることができます。

樹木は2度生きることができる生物です。CO₂を固定しながら成長する生涯と、人間の営みに役立ちながら使われる生涯です。樹木の森を守ることも大切ですが、家として生まれ変わった森を守ることも、まったく同じ人類としての責任なのです。

伝説としての檜づくり

檜は日本人の文化を感じさせる木です。風呂好きの民族として檜づくりの風呂を好み、檜の匂いがする湯の香は癒しの効果があるとも言われています。同じように檜づくりの家も理想の家として語られることが多いようです。興味深いことに、特に檜づくりの家を求める傾向は海沿いの町に強く残されていると言います。

檜づくりに対する憧れの原

点を探ると「日本書紀」に当たります。書紀によると国土に資源としての木材が足りないと感じたスナオ尊が、体毛を抜いて散布すると各種の樹木となります。髭からは杉ができ、胸毛から檜、眉毛から楠ができます。そしてさらにこれらの木の用途についても記述があり、杉と楠は船に、檜はお宮に使うものだと言うのです。この檜がお宮というものが転じ、家に使う材として最適なものであるという伝説が生まれたのでしょうか。

この話の前置きは韓の国には船があるが、日本にはないというところから始まります。つまり一番に憂慮していたのは船を造



HABITA 東郊建設

「東京の郊外が主な施工エリアなので東郊建設と名付けました」と聞いた通り、ゆったりとした時間の流れる郊外の住宅地に東郊建設さんはあります。

4階建ての事務所の屋上からは街が一望でき、天気の良い日には富士山を眺めることもできるそうです。打合せスペースへ続く階段や廊下にはかわいい小物や絵画が飾られ、細かいところへも心配りを忘れない企業姿勢が見受けられました。

社員の皆さんと同じ作業着を着て

「地元工務店ならではの地域の情報を活かし、当たり前のことを当たり前にやる」と言う、米原社長の飾らない誠実な人柄から、安心してお客様は住まいづくりを任せられるのだろうと感じました。



住まいづくりにちょっと役立つドキュメントTV

HABITA/TV

[HABITA/TV](#) [検索](#)

株式会社東郊建設オフィスの詳しい内容はHABITA/TVの8ch「HABITAオフィス紹介」で紹介しています。

三澤千代治の 住まいは巢まい

間のこころ

『陰翳礼讃』の中に、次のような一説があります。

「もし日本座敷をひとつの墨絵に喻えるなら、障子は墨色の最も淡い部分であり、床の間が最も濃い部分である」。

床の間を“日本独自の粋”として高く評価しています。私も、床の間こそ住まいのなかで、最も日本の情緒を感じさせる空間だと考えます。一幅の掛け軸。香炉、花器、違い棚などが織りなす様式美は日本人ならではのものです。

子どもの頃ですが、谷崎氏がいう墨色の最も濃い空間には何かが潜んでいました。床の間に向かって左右どちらに座るかにも意味があり、左大臣、右大臣の格付けがありました。

床の間の由来は、大家族の時代に家長が寝るところを床の間といい、大きな空間から仕切られていました。土間でなく藁を敷いていました。そのため殿の間でなく、床の間と書きます。その名残で現代でも床の間の畳は一般的の畳と違い、表がざっくりした畳になっています。

日本家屋には空間の上下にも格付けがあります。長押、鴨居の上は神が住む神聖な場所で、神棚が置かれました。人は下に住みます。日本住まいの空間には「けじめ」があり、日本の文化や伝統と結びついていたのです。



現代の日本の住まいからはこうした「けじめ」がほとんど失われています。上座・下座の意識はうすらぎ、2階建て、3階建ての家では神棚の上に平気で人が暮らしています。来客を上座でもなす作法、父親が上座に座る家も少なくなっています。

こうした家庭で育ち、社会に巣立つた子どもたちに「長幼の序」を期待しても無理というもの。上司や教師など上位に対しての言葉遣いや態度にけじめがないのも、当然といえば当然です。床の間は神聖な場所でありながら、神棚とは違い、部屋の低い位置にあります。子どもは神棚には届きませんが、床の間には手が届きます。いたずらをしたければいくらでもできます。小さなうちからこの空間は特別な場所、神聖な場所と教え、しつけることで、けじめを知り、身につきます。

大人がまずけじめをもって床の間に接することから始めてください。

(MISAWA・international 社長)



ることだったのです。

この話を、海沿いの町に強く檜づくりの家への憧れが残ることつなげると、杉と檜の価値が何となく分かります。海の民である漁師の気持ちになって考えれば、家よ

りも船の方が大事です。船は生活の糧を得るものであり、何よりも自分の命を託すものです。書紀の記述でも船を「浮宝」と表示しています。船を造るべき大切な杉材を家づくりに使うのはもってのほかで、檜あたりで間に合わせておけば良いことです。同じように胸毛よりも髭は顔にある毛髪であり、その意味でも杉の大切さが象徴されています。つまり、日本人にとっての一番材は杉だということです。

今や船はすっかり金属や樹脂で造られるようになりました。一番材であり、命を託すことができる杉で家を造ることができるのは贅沢な時代になったのです。

HABITAな風景



幸せの招き猫

ぽかぽかと、穏やかな天気の日が続きます。桃の節句も端午の節句も終わり、孫たちのための飾り人形も片付けました。作りかけの招き猫が押し入れの奥から出てきたので、久しぶりに針を入れてみました。

招き猫は、右手がお金で左手が人を招くのだと。あまり気にせず作っていましたが、といえば、うちにはよく人が集まってにぎやかです。

住 健 住 康

じゅうけんじゅうこう

健康と環境に
やさしいお手入れを

毎日の洗髪は清潔感がありますが、シャンプーの洗浄成分は、実は石油から作られていますが多くのあります。

石油系のシャンプーは頭皮のただれ、フケ、かゆみなどの皮膚障害を引き起こす可能性があります。また、キューティクルが剥がれ落ち、毛髪は細く、ハリやコシが弱くなり、抜け毛、切れ毛の原因とも言われています。頭皮に必要な油分まで洗い流してしまっているためトラブルが出てきます。分かりやすく言うと台所洗剤と同じ洗浄成分で髪を洗っているということです。それで洗えば髪がギシギシになってしまいます。そこで、ギシギシ感をなくするために入っているのがコーティング剤のシリコンです。

シリコンは髪の毛の表面に膜を作り手触り感を良くしてくれます。しかし、シリコンでコーティングされた毛髪は表面的にはサラサラですが、栄養分や水分

などを吸収できない状態になってしまいます。髪本来は良くなっていないのに、表面的に良く見せているのです。

残念ながら市販のシャンプーはほぼ石油系です。頭皮と髪の健康にとつて良いのは、値段は少し高めですがアミノ酸系のシャンプーです。

住まいにおいて合成洗剤は、歯磨き粉、洗濯洗剤、台所洗剤など広く多く私たちの周りにあります。たとえば、市販のフローリング掃除用洗剤はワックス効果や除菌、抗菌、撥水効果などがあり、お手軽で簡単な洗剤ですが、アトピー性皮膚炎の原因とも言われ、その排水は環境にも影響を及ぼします。掃除用洗剤よりも表面のコーティング作用があります。複雑な成分が入った商品を比較するよりも、単純に考えて、こまめに掃除機をかけ、硬く絞った雑巾で拭くことで十分なのです。



自分の体のこと、家のこと、そして環境のこと、しっかりと見てやさしいお手入れをしたいものです。

Green Earth

庭に大きな木を

森には神様が宿るといわれ樹木より高い家をつくるのは、神様に失礼だという教えがあります。写真は、家より高いケヤキを植えたHABITAです。この樹木で、どれだけの二酸化炭素を吸収できるのでしょうか。樹木の太さ約20cmのこのケヤキ2本で、炭素換算で1日に吸収する二酸化炭素の量は約120g、人間がはきだす二酸化炭素の量の1人分に、まだまだ足りません。神様に対してだけでなく、地球

の未来、私たちの生活のことを考えても、庭に家よりも高い大きな木を、ぜひ、もっともっと植えましょう。

植物は光合成により二酸化炭素を吸収しています。したがって、植林をしたり、切った木を、材木として長期にわたり有効利用できれば、温室効果ガスの排出

量を減らすのに役立ちます。逆に樹木を燃やしまえば、温室効果ガスを排出するのと同じことになります。

現在、世界の森林は約34億5千万ヘクタールであり、全陸地面積の約27%を占めています。世界的に見れば、森林面積は、伐採や農地の開発などにより減っています。

特に熱帯林については1990年から1995年の間で年平均約1290万ヘクタールの森が減少しています。森林を守ることはもちろん、温暖化防止の観点からは、植林がますます重要になってきます。木材製品については、できるだけ長く愛用することが大切です。



ケヤキのような落葉高木の二酸化炭素吸収量

樹木の太さ	1日に吸収する二酸化炭素の量		
	グラム(炭素換算)	リットル	1.8リットルボトル
5cm	9g	16.8ℓ	9本分
10cm	17g	31.7ℓ	18本分
15cm	34g	63.5ℓ	35本分
20cm	60g	112ℓ	62本分
30cm	102g	190.4ℓ	106本分
40cm	153g	285.6ℓ	159本分
50cm	221g	412.5ℓ	229本分

※人間の吐き出す二酸化炭素の量は、一人当たり1日約300ℓ。

5th Room

延長線上に広がるデッキ

5th Room[五番目の部屋]の基本は、室内での暮らしの延長線上にある外での暮らし方をいい、「テラスルーム」とか「OUTDOOR LIVING」という表現でも使われています。パティオガーデンという言葉がありますが、これとは一線を引きます。

家の延長線上で室内のリビング、ダイニング、キッチン、ベッドルームと一緒にフロアにして、時には屋外や屋内の暮らしが同一の空間として楽しめる構造、間取りが5th Roomの概念です。

室内からはできる限り延長線上に、そしてフラットにデッキを伸ばして、そこを取り込んだ空間を作ることにより、リゾートの雰囲気やくつろぎの間ができる。自然との交わりを作ることにより、リラックスできる心の健康の部分までも創造することが可能になります。その空間を作るためには、壁、屋根、家具、そして何よりも大事なのは室内との延長線上を創り出す床(デッキ)です。デッキの素材を何にするかということも大切な要素になります。

例えば、今流行のリサイクルウッド(合成木材)は、夏には熱をため込んで裸足で歩くにはヤケドをする程の温度になってしまいます。海外ではブルサイドをはじめ、外のデッキには天然の木を主流として使い、夏の直射日光を避けるためにシェードやオーニング

グ、パーゴラを入れて日陰を必ず設計に入れます。リサイクルウッドにする場合もテラスに敷くラグマット(テラス用じゅうたん)とシェードの組み合わせなどで工夫をすれば、快適な空間になるでしょう。

メンテナンスを考えるとデッキタイルでセラミック製のものもあり、空間をシックに楽しめ、掃除もしやすく魅力的です。

庭と屋内をつなぐデッキのステージは家族が季節や自然を感じることができ、またコミュニケーションや、感動や幸せを生み出せる大事なライフケースペースとして、これからのお家と「庭」をつなぐ重

要部分でもあります。そして、目的に合わせたガーデンファニチャーを置き、テーブルコーディネートをし、そこは「家庭」という幸せな暮らしをもたらす最高の場の演出を引き出すこともできるのです。

